

長野県豊丘村での リニア残土処分は 危険すぎる

豊丘村住民 原 章

- 豊丘村のリニアの現状
- 本山・戸中残土の危険性
3つの観点から
- 今、私が言いたいこと

< 豊丘村のリニアの現状 >

- 本山残土置き場
- 戸中坑口・残土置き場
- 坂島坑口・仮置き場と要対策土
- 下伊那変電所、豊丘変電所と送電線・鉄塔
- 村内小規模残土置き場
- 壬生沢坑口
- 水枯れ問題
- JR東海が諦めた牛草川と地蔵ヶ沢川残土置き場



本山残土置き場

残土量130万立方メートル

奥山の危険な大量の谷埋め
盛り土



戸中坑口・残土置き場

坑口： 本坑掘削
ベルトコンベアで運搬
すぐ下には虹川

坑口上の残土置き場：
残土量26万立方メートル
危険な谷埋め盛土



坂島坑口・仮置き場と要対策土

坂島坑口：斜坑掘削
すぐ右側に虻川

坑口上の仮置き場
残土処理

シートに覆われた要対策土 3,000m³



2つの変電所と鉄塔・送電線

下伊那変電所:

造成が済み、建物建設、機器設置。
ここから鉄塔・送電線もあちこちに。

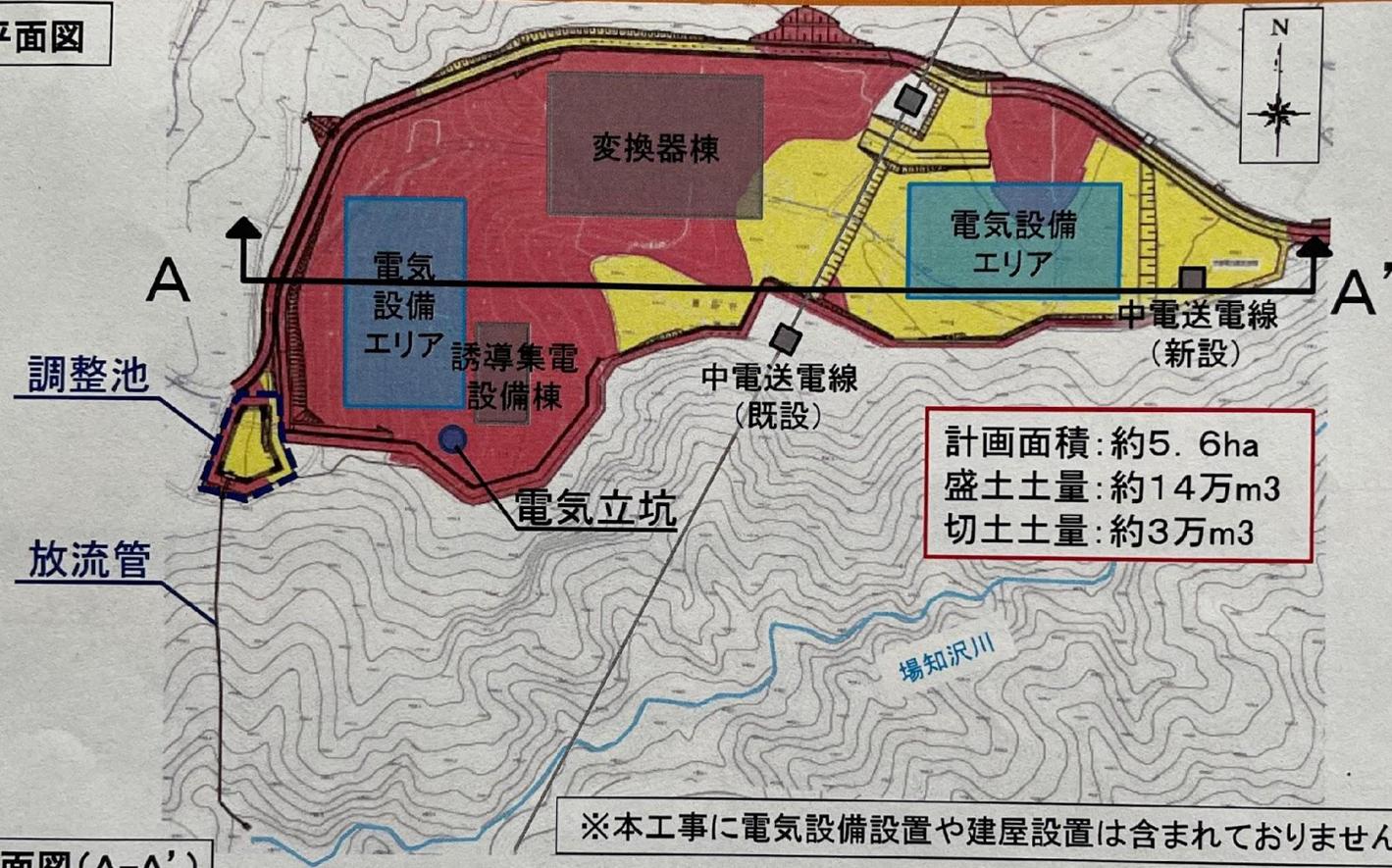


豊丘変電所:

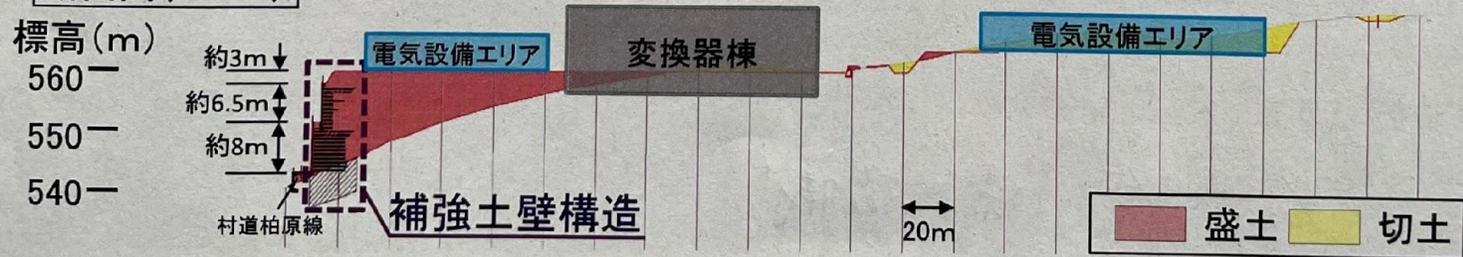
これからの工事。
残土盛土と切土で平地を作り
その上に設備を建設。



平面図



断面図(A-A')



豊丘村内小規模残土置き場

谷を埋めて、公園駐車場に



谷を埋めて曲がった道路を
直線に



ほかにもあり、
残土処分場所を求め、今後も増えそうだ

壬生沢坑口

壬生沢坑口を出るとすぐに高架橋。工事は全く手つかず。
道路改良、河川流路変更なども必要で、かなりの時間を要しそう。

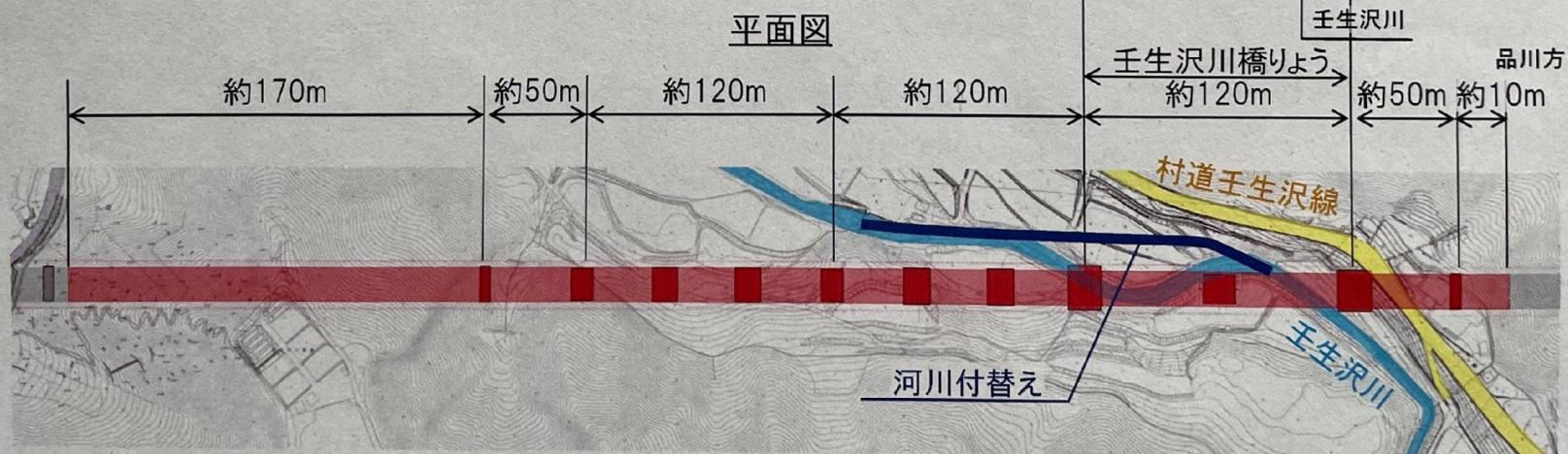


壬生沢川高架橋区間・阿島トンネル区間

側面図



平面図



※図中の『PC』は『プレストレストコンクリート』の略、『ラーメン』は柱と桁が剛結している構造をいいます。

水枯れ問題

- 戸中坑口の掘削を始めた頃、斜坑周辺で横井戸が出なくなったという事例3件。JR東海は沢から水を引く対策を取った。
- 福島区からトンネル掘削による水枯れを懸念する声上がり、JR東海は本坑掘削が福島区に達する前までに影響のない沢から管路を引いて既存水道に接続すると説明。
- 今後も更に水枯れの問題が起こりそう。

JR東海が諦めた 牛草川、地蔵ヶ沢川残土置き場

左上流が牛草川、右
上流が地蔵ヶ沢川
ここから下流が小園
の集落
本山や戸中と違う展
開。ここの残土計画を
JR東海は諦めた。



・本山・戸中残土の危険性

本山組織に関わってきた者、下流に住む者として

3つの観点から

- ・自然条件
- ・工事方法
- ・管理上、将来的なこと

本山と戸中の危険性 自然条件から

- 山岳地帯の**浸食最前線の急傾斜の谷**に**リニア残土**を置く。これまで浸食され削られ流路となったところに敢えて残土を置く危険な計画。
- これらの地域は、ほとんどが**風化しやすい花崗岩**で出来ている。
- **36災害の時に、これらの谷はほとんどが崩れ下流を危険にした。**36災害のような災害は、この地域を100年に1度は襲うとされる。

- 豪雨や大地震で本山や戸中の残土流出が起これば沢筋を流れていき、虻川本流との合流点において虻川を一時的に塞ぎダム湖を形成する可能性は高い。最悪の場合、**虻川下流に恐ろしい土石流被害**をもたらす。戸中残土置き場は、本山より残土量は少ないが、虻川までの距離が100mしかなくて、本山より虻川下流に近く土石流の到達時間は短い。

本山と戸中の危険性 工事方法から

- 本山が130万立方メートル、戸中が26万立方メートル。**大量の残土**を高く盛り上げる。
- 各地で崩壊し災害を引き起こしている**谷埋め盛土**
- **盛り土をすれば当然地下水位の上昇**が起こり、それが崩壊要因となる。
- JR東海は埋設工設置などで残土の滑りを止められる、排水対策を行うなどとしているが、**十分な計画とは思えない**。質問してもあまり詳しく答えない。

•計画の通りの工事が出来ていない。県や村もチェックできていない。

本山では調整池を作らないまま、上流からどんどん残土を積み上げている。

残土の粒がズリでなく砂のように細かくして使っているのもので水はけが悪く水位上昇を引き起こす。

本山と戸中の危険性 管理上、将来的なことから

- 工事中の盛土崩壊に対する対策が明確でない。
- 工事後のきちんとした管理計画を説明会で説明しない。
- 時間経過によって盛土内の水の滞留、排水設備の劣化は起こる。JR東海は、残土はズリの状態で水はけが良いとしているが、時間がたてば残土内部でそれ自体が目詰まりしていき水位上昇を引き起こす。また、配水管が十分に機能すればよいが、時間の経過による劣化や目詰まりなどで機能しなくなれば水位は上がる。

- 虻川本流にある既存堰堤は全て満砂となっていて、崩壊した残土を止められない。盛土崩壊が起こった時、流出物を止める手立てがなく、非常連絡体制なども明確でない。
- 奥山の残土置き場までは、ほぼ1本の山道があるだけ。災害時には通れなくなる。非常時での対応が難しい。
- JR東海が土地を取得して後の管理をする方向となっているが、ずっと管理していくことには限界がある。JR東海自身が確約できなかった。

<今、私が言いたいこと>

○**建設計画、特にルートを決める段階で、大切なことが何も検討されていない。**

山岳地帯のトンネルを掘れば大量残土が出る 沢筋に埋めて処理すれば危険 大断層を横切る危険性 地盤沈下 水枯れ 有害物質産出 など

○**本山・戸中の残土で下流域住民の生活が危険になるという立場が正当に扱われたことが一度もない。**本山決議、村の署名の扱い など

○ストップ・リニア！訴訟の原告適格と保安林解除の下流域住民の扱いは似かよっている。**危害を受けるかもしれないという者の声をまともに扱ってくれない。**

ストップ・リニア！訴訟の原告適格：狭い。738名のうち532名が原告適格がないと判断された。

本山の保安林指定解除に係わる意見書：意見書を提出できるのは、「保安林の解除に直接の利害関係を有する者」に限られるとして、そのことを証する書類の添付がないなどと私の意見書は不採用とされた。**下流で危害を受けるとするのは、利害関係そのものなのに・・・**

○本山や戸中の残土置き場の**問題点や危険性は始めの頃と何ら変わっていない**。それでも工事が進む不可解さ。指摘してもJR東海や県、村などはまともに相手にしない。

○世の中全体が様々な**リニアの問題点や危険性をもっと大きく取り扱うべき**。また、地域でも話題にしないといけない。現状は、そういうことを極力話題にしないで、リニアへの期待感醸成、JR東海のリニア工事の安全宣伝、静岡知事のせいにする世論操作などがまかり通っている。

○たとえ工事が完成してもずっと問題は残り、本山や戸中の残土置き場などの危険性は時間が経過するほどに大きくなる。いつまでも問題を指摘し続ける必要がある。

○500年後に誰が残土置き場の管理をするのか？管理しなくなれば、虻川下流域で熱海の土石流災害と同じことが起こる。

<この発表の最後として>

本山や戸中の残土工事は、すぐに中止して元の状態に戻してもらいたい。私はいつまでも本山や戸中の残土工事の問題点を言い続けます。